

菜蔬部

成形圖說

菜蔬部

二十九



特別
三十一
144
28



門二加 /
號 / 44
卷 298

成形圖說卷之二十九

目錄

水芹 セリ
烏芋 クワヅ
慈姑 チコ
蓴 スナ
山葵 ワサビ
辣米菜 カタクナ

附 岳芥 タケノコ



成形圖說卷之二十九

成形圖說卷之二十九

菜部 水菜類

世利

利ハ書紀○又神代紀ハ曾利トモ列里和訓菜に世利ト

通加通美の本三州和名○按此今美與利艸長平和名○百

官私記左右近藏人野里海の食物と細吉智と引て

曰三ヨリ艸ハ芥ノ葉ヲ取リて食之也橋宮と云々

乃名を崇て此ハ今橋ノ宮と云々

乃名を崇て此ハ今橋ノ宮と云々

乃名を崇て此ハ今橋ノ宮と云々

成形圖說卷之二十九

二



烏芋
クロクツ

ハナクツ
剪刀草



水芥

え〜〜の四亭餅正月飾の茄子芥かど〜小炒ハ清息之れ
 させ玉ふ清齒々々ぬれ餅を敷ま〜らぬ申ふ芥け
 沸か也ちひの中までつくまの可ぬ○赤莖の草
 状畧相似る茄子細目亦菜部子収る子也此州微毒
 あり此間の人服食をのちし因て茲に載せ也李廷飛云
赤芥害人
 不可食○芥ハ臘月より菘葉を癸生て莖節稜わ申空
 其幹多くハ舒倒て長子その尺許毎節子極と分ち也
 正月の頃碎白花を攢簇て花謝て小実と結ぶあり存後
 乃南邊類地那の法邑ハ冬の中冰雪積みて叶本丸に凋
 ざり河の此雪乃田沢に生る水芥ハ殊さ〜に莖差肥軟

くて脆薄食ふと渣と留ご味交子甘美し○一説ハ重
 汚紗秘病紗等に惠具ハ水芥の異名あり倭形と仲実と
 贈答の如け菓子とせるとと返寄子ハせ刺と詠ふ〜の
 志とせり同物宛重蒙紗子と志とせりひ〜の物の名
 とろ〜〜のわと云々此れと菊葉集の注子志をハ烏芋也
 也阿〜子標してそふし次條子出〜ぬ○凡、早春に芥根
 と連て引採り水に洗ひ淨て沸湯に瀹子菹とと壅とも
 或ハ薑臍ふ加一炒鍋子盛子そ翠乃色鮮らく芥芳あり
 てハ氣と莖をハ唐の杜子美が詩に香芥碧澗羹と此の
 備馬菜み小芥〜とゆ〜とらゆしと軟〜ハひりし

あけ玩賞アソビの場マのの一ヒト燈トあり○柳ヤナギ芥カイハハのノ柳ヤナギ子コ似ニ
ゆるユル子コて味アジ厚コトし山ヤマ芥カイてふトもモ太タくク也ヤ刻キ缺ケツ多タし是コトハ
柔ユル子コ肥コエゆる地チ子コ生ナほホちチて必カナラ別ワカ種シユハハ何ナニとト又マタ紅ベニ毛モウ
芥カイハ根ネ色イロ紫ムラサキし蕃シバ名ナセルセルテリ一ヒト是コト也ヤ○此コトの精セイと書カキひ
氣キと書カキし伏フシ熱ネツと去サレ石イシ薬ヤク此コト毒ドクと殺コロス此コト他ホカ王オウ治チ多タし豈ナラ
下シタふと如ニ次ジべらんやヤ本ホン艸ショ弘コウ景ケイ云クニ論ロン其コノ王オウ治チ合カフ在アル列レツ子シ云クニ
宋ソウ有アル田テン父フ暨シ春チュン東トウ作サス自ミヅカ曝ハク於ニ日ニチ不レ知ラズ天テン下カ之ノ有アル廣コウ厦カ隩ウ室シツ綿メン
纏チン狐コ貉ロク顧コ謂フ其コノ妻メ曰ク日ニチ之ノ暄クワン入ニ莫レ知ラズ者ヲ以テ獻セ吾ガ君キミ當ニ有ル厚コウ賞シヤウ
也ヤ其コノ室シツ告ツ之ニ曰ク昔シヨク人ニ有ル美ミ戎ジウ葵キ甘カン泉セン莖セイ芥カイ萍ヘイ子シ對シ鄉キョウ豪コウ稱ス之ニ
鄉キョウ豪コウ取ツ嘗シヤウ之ニ蝻サマシ於ニ口ニ慘カン於ニ腹ニ衆シュウ晒シヤウ之ニ又マタ嵇シ叔シツ夜ヤ典テン山サン巨キョ源ゲン絶ツツ

交書云野人有快曝背而美芥子欲献之至尊後世遂有献
芥之說實無所出嵇叔夜合而言之耳○萬葉集天平元年
班田之時使役山背國贈薩妙觀命婦等所歌副芥子裏苗
さいひるはさひて野羽玉の取れ味子採る芥これ○
紀納言池亭記芥園八之二芥田七之一蝸安其舍風樂
其縫○昔冬のおは芥の糸に法乃蝨子と着く規どと也
えど得ておれと管一は恙とふれぬみ季春の頃よりハ
宵ふべり張仲景が金匱要略に春夏之交を色て芥
春月時穀北の穂を求て泥と乾て先ハ芥を好め冬
肥健く亦自遠くの地を慣ふるを好む
謀と深く亦自遠くの地を慣ふるを好む

氣味甘性平やして毒なし商陸ヤニコホウと同しく食ふあとかう
 此○主治精と毒の氣を蓄し腸を利ハラに○鼻衄ハナキは芥薺セリアサミ
 を按モミて汁を用ふ一本にこの二味を按モミてその汁を鼻
 に入イ入レと何ナり○又方手腕テスミと濡ヌルし百會ヒヤクエ穴アナに充アチて熨フ斗ツ
 子シ火ヒと細シ少シし麤アウ子コのどノに手テ腕スミ乃ノ上ノと熨フぐし○小兒コノチ疳カン
 乳ニ吐ク痢リすル子シ芥葉セリアハ細シに割キガミて濃煎コクセンじ一服イツパクみ一盞イツサン許アタ呉ニ
 よ二三ヨニサン好コトふてあし一以上和方

久ク和ワ為シ和ワ名ナ鈔シ○庭テイ訓クニ恒コト存ゾ子シ田テン鳥ニ子シ
 久ク呂ロ久ク和ワ為シ和ワ本ホン形ケイ子シ儂ニしシ存ゾ子シ田テン鳥ニ子シ
 和ワ本ホン名ナ州シュウ惠ヱ具ク萬マン葉エフ水スイ芋イモ山サン須ス斤ケン新シン撰セン字ジ鏡キョウ
 久ク和ワ為シ和ワ名ナ鈔シ○庭テイ訓クニ恒コト存ゾ子シ田テン鳥ニ子シ
 久ク呂ロ久ク和ワ為シ和ワ本ホン形ケイ子シ儂ニしシ存ゾ子シ田テン鳥ニ子シ
 和ワ本ホン名ナ州シュウ惠ヱ具ク萬マン葉エフ水スイ芋イモ山サン須ス斤ケン新シン撰セン字ジ鏡キョウ

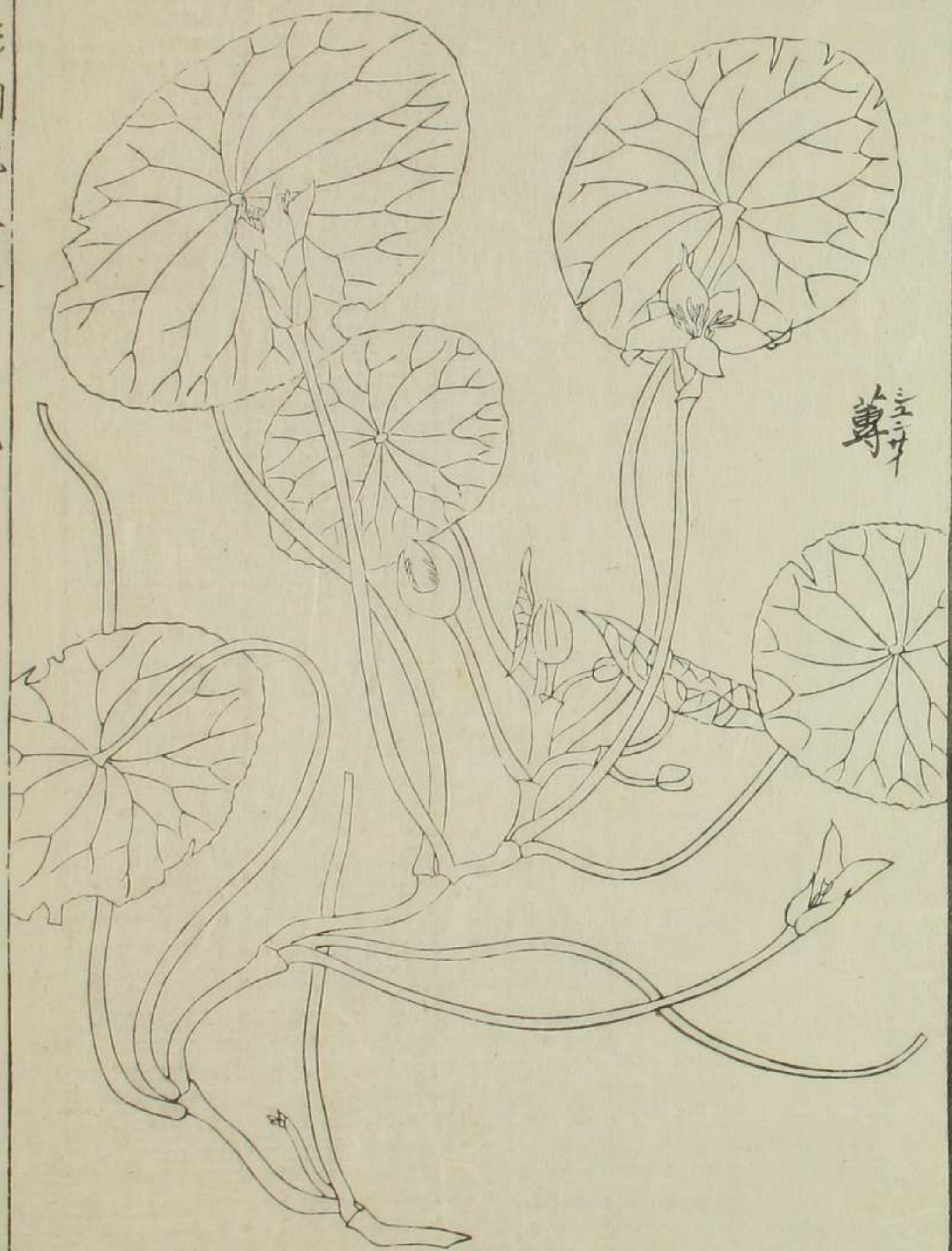
可カ按ア子シ集シユ韻イン昨ソク水スイ芋イモ也ヤ韻イン會クワイ昨ソク藉セキ也ヤ蓋カフ藉セキ
 茄カとト通ツウしシ又マタ山サン須ス斤ケンハハ葉エフ状シヤウとト指シしシ言ゴン也ヤ黑クワク具ク夜ヤ和ワ訓クニ
 太タイ蘭ラン食シヤク鑑ケン朝テウ尻シヤウ刺シ油ユウ管カン朱シュ喫キツ田テン鳥ニ芋イモ
 烏ウ芋イモ別ベツ録ロク芍シヤク烏ウ薤シヤウ此コノ亦マタ作サス茨ソウ烏ウ亦マタ
 鑊コク勃ボク薤シヤウ救クウ荒コウ○猪シウ芋イモ薤シヤウ蒲フ薤シヤウ符フ訾シ勃ボク薤シヤウ黑クワク三サン棱リョウ以上イサナ
 地チ栗リ通ツウ水スイ芋イモ出シュツ雜ザツ要ヤウ訣ケツ○廣コウ雅ヤ水スイ芋イモ又マタ曰イハレ烏ウ芋イモ土ツ栗リ異イ事ジ物モノ
 蕃ハン名ナワワトトルル口コイイトトルルススココ口コイイトト
 久ク和ワ為シとトはハ思シ九ク薤シヤウ了リョウ言ゴンのノ行コウ也ヤ也ヤ九クハハ輪リンとト反ハン了リョウ思シ
 ハハ芋イモ根コンとト謂イハレ薤シヤウハハ其コノ幹カンとト謂イハレ也ヤ琢ソク王ワウ雜ザツ字ジ子シ芋イモ薤シヤウ夏カ種シュウ冬トウ掘コク
 不フのノ宮キウとト謂イハレ薤シヤウハハ其コノ幹カンとト謂イハレ也ヤ琢ソク王ワウ雜ザツ字ジ子シ芋イモ薤シヤウ夏カ種シュウ冬トウ掘コク
 根コンのノ宮キウとト謂イハレ薤シヤウハハ其コノ幹カンとト謂イハレ也ヤ琢ソク王ワウ雜ザツ字ジ子シ芋イモ薤シヤウ夏カ種シュウ冬トウ掘コク
 不フのノ宮キウとト謂イハレ薤シヤウハハ其コノ幹カンとト謂イハレ也ヤ琢ソク王ワウ雜ザツ字ジ子シ芋イモ薤シヤウ夏カ種シュウ冬トウ掘コク
 しシ乃ノ惠ヱ具ク了リョウ言ゴンハハ薤シヤウ芋イモのノ約ヤク也ヤ也ヤ其コノ形ケイ子シ芋イモ薤シヤウ夏カ種シュウ冬トウ掘コク

子一説子狗兒艸^{エ、コ、ゾ}あり其根の顆^{タマ}かほが狗兒頭^{エヌ、コ、ロ、シ}子似^ニたり
 為^キと害^エハ常子^ト無^ク子^ト詞^トあり又田鳥芋^{タノ、ウ、イモ}ともいひ約^ツて田^タカ
 う芋^{イモ}と呼^ヨび鳥芋^{カス、イモ}と此根の運^トくて其芽鳥^{イモ}の喙^{クビ}かほに状^{カタ}を
 了^シ若^カくとそ^トる^トり○此^コのハ春分の頃^トより花^ハを^ツ出^ス也
 燈^ジ心^シ艸^カ子似^ニて株^クを^ツか^シ高^{タカ}まりのハ之^コ四^シ尺^シ子^コ必^{カナラ}し其^コ根^ネ
 白^{シロ}弱^{ヨク}あり節^{フシ}毎^{ゴト}子^コ顆^{タマ}と生^ナじ蓮^{ハス}藕^ゴのおと牽^{ヒキ}行^ユゆ急^イみ盃^{ハキ}を
 ど^トみ種^{タネ}る^コハ急^イ子^コ種^{タネ}べし方^{カタ}なれば衝^{ツキ}劣^{ヤク}て根^ネ迄^マぶる
 あり其^コ連^ヒ茹^ニ子^コつれて顆^{タマ}を^ツ産^ムる^ト芋^{イモ}子^コ似^ニて毛^モ髮^ヘ生^ハし既^ス
 ハ^ナ凹^ホし凡^ト一^{ヒト}顆^{タマ}より子^コと節^{フシ}く^ク子^コ生^ハ出^ルる^トおと三十^{サウ}許^キあり
 ぶ^フ季^キ秋^{アキ}子^コつ^ツりて握^カ揉^ミ皮^ヒを^ツ剥^ヒて生^ナながくと煮^ニて食^ク

子味栗^{ミ、リ}の如^ニし○此^コを收^{タマ}蓄^ヒ子^コハ土^{ツチ}を極^キ白^{シロ}沙^{シャ}の中^{ナカ}子^コ埋^マま
 ぶし若^カ斯^カる^トハ秋^{アキ}季^キ子^コ採^{トリ}し或^{アル}夏^{ナツ}乃^ノ水^{ミヅ}果^ミ子^コおどみ用^{ツカ}
 子^コは^ハか^カら^ラ切^キりて味^ミ清^サ美^ミあり其^コ莖^カ子^コ至^シバ肉^{ニク}と芽^メ或^{アル}
 白^{シロ}急^イに^ニ之^コと缺^カべし^ト或^{アル}急^イとあり其^コ莖^カとあり子^コハ芽^メと莖^カ
 し或^{アル}種^{タネ}べし倘^モ水^{ミヅ}中^{ナカ}に^ニま^マる^ト重^{オモ}げ霜^{シラ}子^コ値^チて必^{カナラ}朽^ク索^{ソク}ぬ存^{ゾン}
 艸^{ソウ}子^コ冬^{フユ}春^{ハル}掘^ウ取^ケ為^ナ果^ミとハ野^ノ生^シ子^コを野^ノ生^シハ即^{ソレ}鳥^{トリ}芋^{イモ}の自^ミ
 生^ハりて形^{カタ}稍^{シヤウ}小^コし實^ミハ一^{ヒト}種^{タネ}あり春^{ハル}の頃^{トキ}志^シを極^キりて生^ハ
 ち^チぐ^グ茹^ニつ^ツる^ト味^ミ亦^モ栗^リ子^コか^カん^ニ似^ニる^ト是^コ菊^{キク}葉^{エフ}集^ツ春^{ハル}の軟^{カク}子^コ
 おめる氣^キが^カふ^ト其^コ山^{ヤマ}田^タの沢^{サハ}子^コ急^イ具^グ痛^{ツム}と雪^{ユキ}けの水^{ミヅ}子^コ葉^{エフ}の
 子^コを^ツぬ^クぬ^ト其^コ味^ミも^モの^ノを^ツ注^ツみ^テ急^イぐ^トは鳥^{トリ}芋^{イモ}也^{ナリ}と^トス^ル

名 赤しと好むと和名鈔引唐韻膠口中上膠也阿
 岐と又ゆ乃と玄鳥の尾のち子鉸の形を似し
 小をそ岐乃は亦奈義のちち種をの也
 しと女は此の方と下おちり又壺の
 慈姑葉の状あり出しおちり
 海子 天牟受 但鳥おいて
 刀 和 為 和 刑 菜 剪 刀
 花 久 和 為 州 別 録 ○ 本 州 和 名 引 陶 景 注 籍
 慈姑華 藉姑 水萍 姑 一 名 水 洋 ○ 本 州 和 名 引 陶 景 注 籍
 或曰芋 河鳧茈 白地栗 剪刀 州 苗 名 以 蓋 萍 的 訛 あり
 の 訛 也 水 慈 菰 荒 上 救 槎 州 槎 尾 州 綱 目 槎 舟 本 州 和 名
 田 酥 昆 陵 菹 菇 品 字 昨 實 正 字 此 菰 韻 會 大 蘇 通 雅
 蕃 名 ゴ ー ト セ ル ペ ン ツ ト ン ゴ

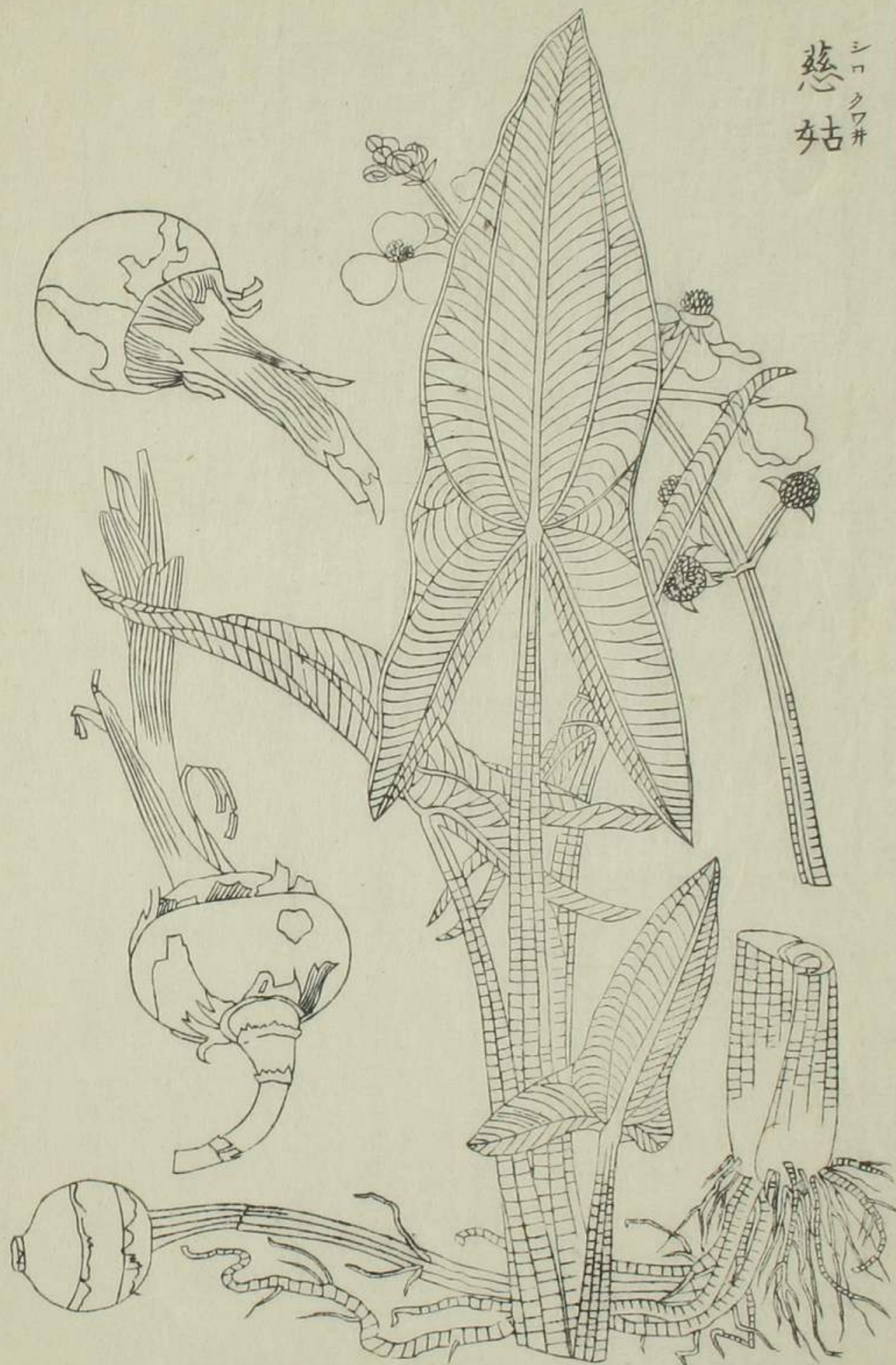
此奈義了ふその天智紀以下式抄おとみ水葱とのと載
 られくそ物今ハ詳み志まらんあし母の州家了ふ人子
 四一ハ浮菰の事よと公然答へ子されど万葉集詠酢
 醬蒜鯛水葱歌み醬酢尔蒜都伎合而鯛願吾尔勿所見水
 葱乃煮物とるえよこの浮菰は食物もせざるべから
 ぬを州家の説ハ信られ西の州にてハ鳥茅とやみつ
 うひて慈姑ハ稀なるゆゑそれらとやおひつらさる
 しら江門にまぬて酒菓の羹子慈姑と多く料理のみ心
 つまつ、奈義了ふそのハ慈姑はあらし欲と程を京
 人子も質しまゆせ東うとみおちこれ皆前説が
 成 形 圖 說 卷 之 二 十 九



蓮

慈姑

シロクワ



と浮蓄とのと決くいては、事よ結ども順鈔引唐韻藪
 水菜可食也藪音斛玉篇藪又揚氏漢語鈔子水葱奈木と出
 し輔仁鈔子引七卷食經藪菜一名水葱和名奈岐とん
 え和名選みは薺艸云那宜と云に按子當時ソラカミ葱姑て
 ふ文字ハ烏芋クロクマの一名子ありてこの奈義子名へき字か
 きがゆゑ子薺菜の字擬當て用ひゆきて書紀子も式か
 ども水葱とのと奈義と併ツりしむとん又藪の義ハ没
 法の之ちをば法くは藪の事子心つゞどひとのと浮
 蓄シと註イり来しあるべしさてそ存ハ漢人をもむし烏芋
 と葱姑シとをば同じ物子誤ミり混カひて在、叫コ子中一條子記ル

しよると明の時珍ぞ始て二物子ハ別ワち記しておの荒 救
本 艸云茨菰藪二種絶異 混合 注釋 為不 精也 二物子ハ水の中子ハ生ぬ水
 ども眼カをカと絶然 異トある物子し何れを吾のむりし
 ハ同じ物とて心得ぬとに烏芋とクワ井と讀ミと葱姑
 はお水葱の字と假用ひしとおおたる水 和名抄の
芋 ハ芋類子扱て水葱ハ水菜類子おやり是時珍ウ 芋と
葱 姑と云水二物子分カる前カれハ葱姑を烏芋の是名
混 びしカをカ而水葱の字南方艸水状子據ルに水葱花葉皆
 如鹿葱色有紅黃紫三種出姑興婦人懷妊佩其花生男者
 即此花非鹿葱也綱目時珍云蒼葱山原平地皆有之生沙
 地者名沙葱生水澤者名水葱此水葱かとお中一と此ハ

野山ノヤマ蘭ランの方こそ近きものにて奈義ナギのいへりし又穀の
 字ハ唐韻トウオンの水菜可食也といへば是慈姑チコの古名ありし
 と云々トククぶくろび又穀と蘇ソの字ハ他カはわろし又順抄ジュンシャウの
 ちあるハサシオモダカにて穀といふあたりにあがり又
 綱目コウモク救荒クウカウ等の水葱ハ今の太蘭タイランあり又田鳥子テンジョウシなどの字
 シワ井シワイと讀せしハ小町コマチ溜ルの礫レキに知るる破ヒヤク蓮レン子シは白黒
 乃田鳥子ノテンジョウシといふと云々にて注に田鳥子ハくじ井也と云一
 里今採シ此白ハ慈姑チコにて黒ハ烏芋ウカズありべし本叶集解云皮厚色
 黒肉硬而白者謂之猪藟チノク臍シ皮薄澤色淡紫肉軟而脆者謂
 之羊藟チノク臍シ正二月采食之此二等藥中罕用荒歲人多采以
 充糧チノク按又猪羊を以て名を分りこれらハ慈姑と烏芋を
 之のハ正白の二種あるべし

共キ子シくク日ニ井イとトいイひヒしシあアるルべベしシされレどド田鳥子テンジョウシと書て
 シワ井シワイと訓ミせセるルハ烏芋ウカズと主オとせしあアるルむムさサてテ古
 ろり才サ蔬菜サイとしシハ海ウミハ慈姑チコにて今イマの東國トウクニに多くつら
 以ヒ用ヨウひヒしが如カくクみミが内膳式ナイテンシキ供奉ホウブ雜菜ザサイ芹セリの次ツギハ水葱スイソウ四
 把ハ准ジュン四シ升シヨウ五ゴ又マタ漬秋菜ヅクアキサイ料リョウハ水葱スイソウ十ジュウ石シヨク料リョウ塩糟シホゾウ漬ヅク小水葱コスイソウ一
 石シヨク升シヨウ汁糟ジュシヨウ五ゴ斗ト又マタ營水葱エイスイソウ一段イチタン苗ネ二十圍ニジュウイ總單功ソウダンク五十三人
 耕地ケイチ二遍ニヘン把犁ハレ一人イチニン馭牛ヨウウ一人イチニン牛一頭ウシヒトクビ料理リョウリ平和ヘイワ一人イチニン糞コノ百
 二十擔ニジュウタン運單功ウンダンク廿人ニジュウニン殖功シヨクク十五人ジュウゴニン月播ツキハク殖シヨク三度サンタク十五人ジュウゴニン度別タクベツ
 採功サイク十五人ジュウゴニン又マタ田六段テンロクタン二百三十四步ニヒヤクサッジュウシヨクフ種タネ片水葱カタスイソウ料リョウ採サイ子シ
 苗ネとトいイへヘれレハハ顯ケンとト殖シヨク子シ水スイ葱ソウ又マタ薺カイ子シ採功サイクとトいイへヘるル子シ同ドウし

子ハ葉を採り非じ芋の如きハ極功と云り芹の如きハ
刈功と云り○一種小水葱コナギと云者ハ菘菜本艸ヲ謂剪刀
艸也べし万葉マンヤク子莖代タネノのこぢぶが花と云ハナ搦ヒある
おにくゆせり如あし又ハルカニ要露カミ春日カ乃里サト子種タネ子葱ナギ莖タネか
可と云し枝エは分サレ子あり上毛野カミツチいふはの沼に植ウ子水葱コナギ
かくこひむとや種タネと云者ハ注子葱コナギ也ハナ芹セリ也
古事記コトヰ傳ツ子葱コナギと云者ハ注子葱コナギ也ハナ芹セリ也
同意ドウイあり万葉代マンヤクノ記キ子奈義ナギハ春の水菜ハルノ子てむと云
くし子コのノと云えつりと解トクる此葱コナギハ單タの小白花コナギと
云くと淡紫ウツクシキの花ハナさくと又一種堆葉タマキの花ハナ也ハナ大オホくテ紅

ある者モノ子コ盆種ハチノかどハチノして只管ヒタ花ハナと云ハナるハナふわれ
バハいハふハ一ハにハ小コなハぎハの花ハナと云ハナハ此号コトの種タネかハしハも
志シるハべハりハと云ハ和漢圖會ワカンズ子一種ヒト有ア小コ而シテ如トシテ獨頭トコ蘭根ランネ者ハ煮ナ
食ク之ヲ味ミ更ニ佳シ攝津次田村セツノ多出タラシク之ヲ細目コメ云福州別フクシウ有ア一種ヒト小
異カ四時シヨウジ采根サイネと云貝原本艸ハクセン曰イハレオモダカオモダカ系ケイハ葱姑シヨウコ子コ似ニて
異カ葉莖ハナ葱姑シヨウコより小コあり葱姑シヨウコくハ也ハ葉ハのハきハれハこハ世
しハ六月ロクゲツ草白クサハク花ハナと云ハナくハ三片サンペツのハ一ヒト種ヒト干菜カンサイオモダカオモダカ
小コ子花コノハナ干菜カンサイ子コて白ハクし酸醬ハクツキのハ大オホきハ乃ハ如トシテしハみハ曰イハレアギナ
シハはハオモダカオモダカのハ葉ハ子コ似ニるハ小艸コノクサ也ハ七月シチゲツ白花ハクハナと云ハナくハ三
出イあり是コト小オモダカオモダカ欲ホシ是コト子コ並ナラ古コノ謂イハレ小葱姑コノシヨウコありハべ

しむりしハ此の愛好てとてそやせしみて衣紋ふつ
 くるおもだらとわぶあしともあるととお子泣せし
 が如し此の各田の中子肉生あり根切しおに泥田可
 渠水子也沙澤の地など皆枯るし連根出て根際毎
 小顆と着く大あるハ五六寸廻りもある扁と圓と有る
 河の三月茎出て夏をさく根と採り時あし〇凡一根よ
 り一歳子十二子と生れと河を極る子そ子散在り
 〇後ハ河の根と離れとろえり小慈姑の根は食
 子子増一と
 慈姑性若甘く性冷みして毒多し多く食ば齒と損ひ腫

色と失ふ〇主治小兒驚死するに生慈姑と研汁と白
 蜜に和て灌ば頰の腫る 醫法 指南

沼索 古事記〇正滋妙に若菜葉の滑るぬる
 浮沼索 万葉集〇独衣みふも亦河の池乃う
 字鏡〇蓋滑粘と一子ぢみやほ若しかまり
 〇名多しあり 滑州を河に流す事といふ此
 〇書食花 思葉 河童蔓 小判 或亦座禪 突
 拍子 似み苜蓿もかく呼ぶ子りル根沼索 蓴菜 俗
 蓴別録〇和名鈔引本州注云自三四月至七八月通名
 蓴 味甜體軟霜降以後至二月名環蓴味苦體澁
 節 純要術 水葵 水戾 正義 露葵 按明胡承之

真珠船云顏推之家訓云蔡明父諱純改蕪遂呼蕪菜為露
 葵王維詩云松下清齋折露葵意謂帶露之葵不指蕪菜蓋
 露葵語并在此葵朗前亦不指蕪菜也
 冬葵子候雨之蓋
 蕪菜 西陽雜俎 浮菜 浮菜 龜 鴨
 躑艸 以上爾 淳菜 水芹 以上農書 鮑躑艸 通 錦帶
 雅翼 時珍云春夏嫩莖未葉者名蕪菜小也此云
 雅 時珍云春夏嫩莖未葉者名蕪菜小也此云
 豬 時珍云至秋老則名葵蕪或作豬蕪言可
 譜 豬也又訛為現蕪龜蕪以上細目
 名 油蕪通正字 紫蕪 福州志
 蕪 尾蕪 芳



應神紀の歌に依小網池のぬきは縹色多くとまゝ通澄
 日沼繩乃我あり此の經年の陂塘池沢み生るもの也

淡海の湖宮多して味亦孺きり長莖莖色して初夏の
 頃あり嫩子枝毎子忍冬の脂乃おと室朗する涎滑汁多
 く着く葉ハ水上に浮ぶ符子比ふれば橢圓且岐缺かし
 而其嫩子莖と揉く者とし凝脂の煮る葛粉乃おと
 ずもの以當以味頗清美あり三月あり八月あり九月あり
 多く軟あり即稚芽あり九月あり十月あり冬硬く小
 し若し即猪蕪なり塔花中して遠子に委ほし仲夏蒼
 雨の宴に似しり蓋暑子入て六英乃紅花とわく苜蓿の花
 子視せば稍小し後に宴成中細子成包ゆり子
 水中子墜て自生るもの也○万葉り歌六、乃ゆびのた

申に浮ぬあはまふもよまやうぬし此歌一
 ぞふて此をの、あ中に浮き深ふ状ひひ叶つる著し然
 ども今はいふしく地雅言どこの能く約子どし或ハ
 字音お知りていと怪しく鄙びきり時そのまどを依り
 茅葺と志も噂びく沼あはなどいらんあハ愛やうにす
 あさるがま子も口をさしみ茅葺つふは一気くぬ不あ
 とんくく代函記か知子の執り叶るをその、名色
 たりはんち性すあれいひ習紙ぬまどい何となく識人
 稀にたるとま、にいやしと物りるしくみ呼ぶある名
 と志の家屋を人をもたみおびくそがやぶて実地やうに

あり侍るゆゑ子今乃物の如き昔にハみくどいやしく
 或ハ清め子て物らしく韓さ一づああれがねほく侍る
 ぢわ或人大和の國へまゝきて雲汗れ地に茅葺やわあ
 えさせおとふ乃土民子中侍り志うばはる物ハまり侍
 らどとあふ池あうりて此あるその、状ぞといハ
 ばさては多く侍り所あてはどびやく志やうとあんや
 流として多くとわくえさせのむらしはぬあは縁ぬあは
 かどそ中らめさると秋葉の時などみる実拍子と葉乃
 似ころとおもひて実拍子と志とて照どひやく志やう
 とはついであさ性さる万の物乃名堂にあすつて浅

手しう愛侍りみ子○秋増基が幸に乃道記子ぬあそめ
 あがきと人乃むてあうできるとんて承あはば以定
 といひてとらぬあてはるかみくたハあつとめて海
 しあ付子でいうきぬあをちとろ云希と契沖の次ハ
 既大如、玉さへわく記でて海あしく地の名もい
 下ちりるとうれさ子わご也 事文類聚云張翰吳郡人齊
 時執權、翰謂同郡顧榮語欲去意榮執其手曰吾亦與子採
 南山、巖飲三江、水耳翰因見秋風起乃思吳中菘菜尊羹鱸
 魚、鱠曰人生貴得適志何能羈官數千里以要名爵乎遂命
 駕、歸古人燃敵愾の風今は希と亦られさきわご子そ
 煮、尊羹非也蓋未、字誤書為未、下乃地名此二處産此物
 氣味甘性冷みて毒れし○主治腸胃を厚し水と逐ふ

和ロカ 佐備は和名鈔十〇字鏡子萬と和左と
 山葵本艸和名引崔禹錫食經山葵葉似葵故名之生深山
 薑二字所出未詳と引養生秘要山葵和佐比漢語鈔用山
 子控に明音和仇備あてそ形と著以今補語仁の沙
 焯齊民要術音罕味辛○六書故草俗作焯山艸正字通云別
 と作焯同諱尤誤皆草字之訛按子草食焯本艸子辣米菜
 〇浙通志焯菜水芥菜本救荒種焯字之訛
 菜俗名山芥菜 水芥菜
 蕃名ト口ニキユム
 成形圖説卷之二十九 十八

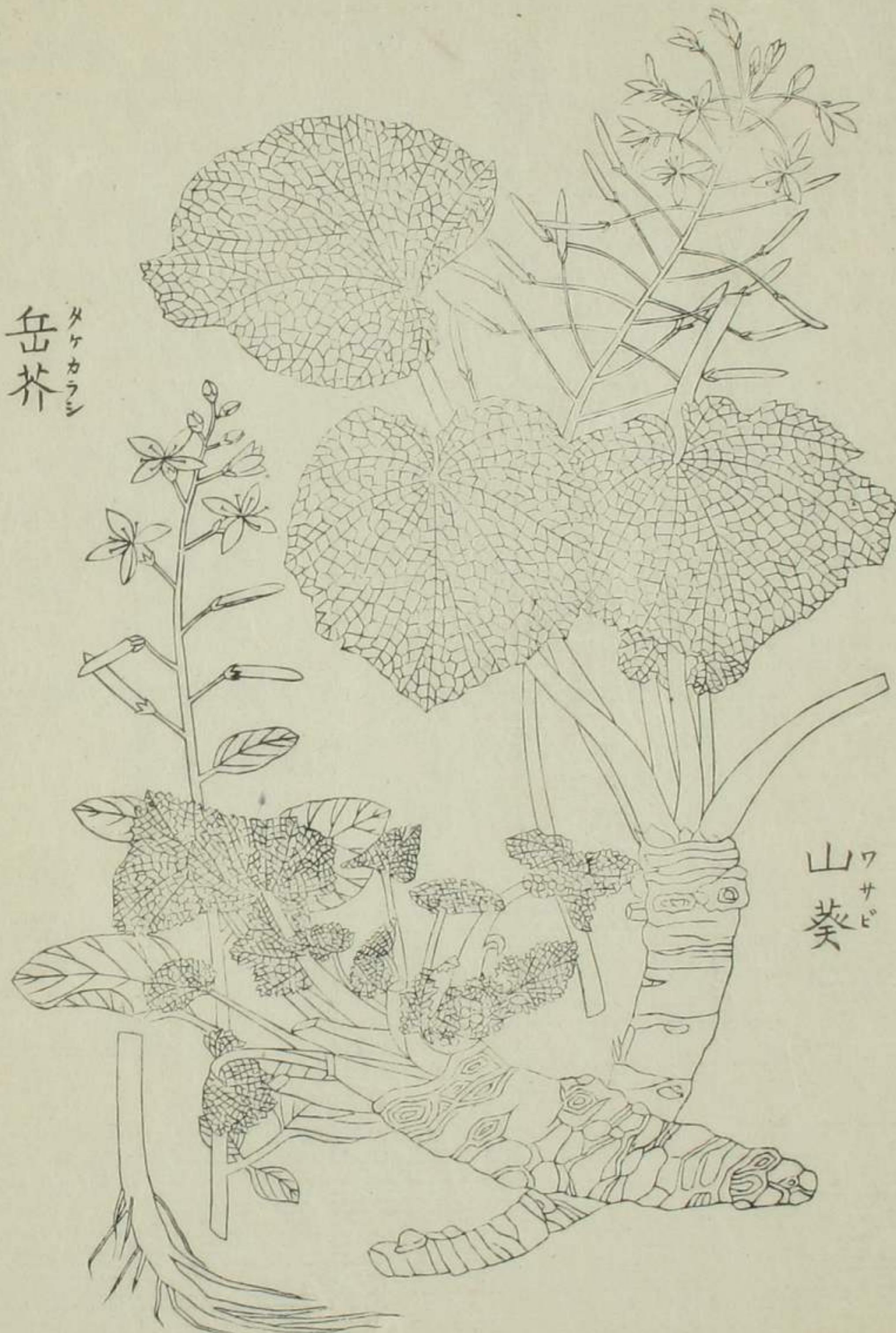
和佐備ハ山^ノ中^ノの葉^ノ子^ノ何^ノの尤^ノも^ノの^ノ今^ノ季^ノノ^ノ蔬^ノ菜^ノ子^ノ用
 水^ノは^ノ哉^ノ内^ノハ^ノ安^ノ藝^ノあり^ノ致^ノし^ノ東^ノ藩^ノハ^ノ強^ノ河^ノ地^ノ方^ノあり^ノ輸^ノ以^ノ此^ノ
 その山^ノ洞^ノ水^ノ石^ノ清^ノく^ノ潤^ノ多^ノる^ノ家^ノに^ノ生^ノひ^ノ好^ノみ^ノ内^ノ膳^ノ式^ノ收^ノ貯^ノ殿^ノ
 擬^ノ供^ノ御^ノの中^ノ若^ノ狹^ノ越^ノ前^ノ丹^ノ後^ノ但^ノ馬^ノ因^ノ幡^ノ等^ノの^ノ諸^ノ国^ノ凡^ノ一^ノ年^ノの^ノ
 中^ノ各^ノ国^ノ所^ノ貢^ノの^ノ山^ノ薑^ノ並^ノみ^ノ一^ノ斗^ノ五^ノ升^ノ三^ノ度^ノづ^ノと^ノ載^ノられ^ノ著^ノ
 同^ノ葉^ノ 陸^ノ海^ノ院^ノ侍^ノ位^ノの時^ノ所^ノ下^ノ人^ノ末^ノ重^ノ丹^ノ波^ノ必^ノ葉^ノ原^ノ乃^ノ波^ノ
 厨^ノ代^ノ侍^ノ位^ノの^ノ為^ノ子^ノ下^ノ上^ノり^ノ時^ノ件^ノ乃^ノこ^ノく^ノあ^ノや^ノに^ノ山^ノ河^ノあ
 その山^ノに^ノわ^ノさ^ノび^ノ多^ノく^ノお^ノひ^ノも^ノる^ノを^ノさ^ノけて^ノ取^ノみ^ノは^ノり^ノを^ノ
 了^ノお^ノど^ノる^ノえ^ノく^ノり^ノ此^ノ等^ノハ^ノい^ノみ^ノし^ノ一^ノ如^ノ佐^ノ備^ノの^ノ産^ノて^ノ宜^ノし^ノき^ノ
 土^ノ地^ノち^ノら^ノを^ノ東^ノ北^ノハ^ノ寒^ノく^ノ西^ノ南^ノハ^ノ寒^ノし^ノ陸^ノ内^ノみ^ノて^ノハ^ノ法^ノ縣^ノ
 郡^ノ次^ノ本^ノ山^ノ中^ノみ^ノ旬^ノ

生^ノの^ノ基^ノ美^ノ子^ノ也^ノ此^ノあ^ノの^ノ肥^ノの^ノ球^ノ摩^ノ郡^ノ内^ノみ^ノつ^ノゞ^ノ子^ノて^ノ
 ハ^ノ沸^ノ泉^ノの^ノ清^ノく^ノ冷^ノみ^ノ冬^ノに^ノ流^ノ一^ノ小^ノ川^ノと^ノあ^ノる^ノ水^ノ勢^ノ急^ノ盛^ノなり^ノ
 水^ノ旁^ノの^ノ石^ノ縫^ノと^ノ相^ノて^ノ緑^ノ苔^ノと^ノ温^ノ暖^ノあり^ノと^ノ移^ノり^ノお^ノと^ノ穀^ノ科^ノの^ノ
 了^ノる^ノ力^ノと^ノ連^ノれ^ノて^ノ蟻^ノの^ノ為^ノに^ノ害^ノあり^ノと^ノ化^ノ生^ノる^ノ子^ノ虫^ノと^ノ出^ノる^ノ
 之^ノと^ノ物^ノの^ノ土^ノに^ノ踏^ノみ^ノ氣^ノの^ノ力^ノ収^ノめ^ノと^ノ化^ノ生^ノる^ノ子^ノ虫^ノと^ノ出^ノる^ノ
 ハ^ノ款^ノ冬^ノ子^ノ育^ノて^ノ細^ノ紋^ノあ^ノる^ノ夏^ノ月^ノ茎^ノと^ノ握^ノし^ノゆ^ノ辨^ノれ^ノ小^ノ子^ノ白^ノ
 花^ノと^ノ着^ノけ^ノの^ノ形^ノ恰^ノと^ノ種^ノ浸^ノ花^ノ子^ノて^ノ根^ノハ^ノ亦^ノ款^ノ冬^ノ子^ノ類^ノて^ノ也^ノ
 く^ノ硬^ノく^ノ色^ノ多^ノし^ノ味^ノ辛^ノて^ノ芬^ノ芳^ノの^ノ口^ノ裏^ノと^ノ清^ノ熱^ノあり^ノ或^ノハ^ノ鼻^ノ目^ノ
 子^ノ帰^ノ内^ノに^ノ至^ノる^ノ薑^ノ擦^ノと^ノ以^ノて^ノ泥^ノと^ノあ^ノし^ノ魚^ノ生^ノ子^ノ入^ノ壺^ノ子^ノ知^ノて^ノ
 氣^ノ美^ノ好^ノあり^ノと^ノ薑^ノ椒^ノ子^ノ如^ノぶ^ノる^ノ西^ノ土^ノ子^ノも^ノ崔^ノ禹^ノ錫^ノ

辣
米
菜
カハダ
カナ



岳
芥
タケ
カラシ



山
葵
ワ
サ
ビ

の傳へし山葵の如くハすえと宋の楊廷秀が金華詩裏初
相識と云ふてと波方古名乃詳ありぬらしるべし
其後此をのみは東垣の食物本草に葶菜味辛生山谷泉
石間根葉皆可食根尤佳○又山谷云孫嶧以砂卧葶食其
苗○六書故云艸生山澗根辛芬可道○臨桂雜識云葶菜
根白色柔脆質類地黄味辛辣性溫出溪澗中○八閩通志
云朱晦庵和劉屏山食葶詩小艸有辣性此根寒澗幽懦夫
曾一啜感憤不能休○林洪山家清供云朱晦庵飲後以草
菜供蔬肝江嚴陵人皆喜食之楊廷秀が謝送葶菜詩に學
琴自有譜相鶴自有經蔬經我繙盡不見葶菜名金華詩裏

初相識王友尊前每相憶坐令芥孫姜子芽一見風流俱避
席取士取名多失真向來許靖亦誤人君不見鄭花不得半
山句却參魯直稱門生以上皆如佐備の事あり川芥岳芥
和佐備共子同しく一種の物なり但根葉の如きありの
と西土みてハ都て葶と以て呼ぶなり似たり救荒本草
の山芥菜も和佐備とぞおなじなり
氣味辛く温みして毒あり○主治禁を散し風と逐ひ温
と溼し積を消し瘡と下次最七病の劑と一魚の毒と
蕎麥の毒を解かり食

川高菜

川芥

種浸花

北地

種

菜

花

子

菜

此菜

食物

本

角

有

細

子

根

辣米菜

花

食

物

本

角

有

細

蕃名無之

川高菜

乃

鎮火

祝詞

に

吾名

妹命

乎

生

置

來

宣

返

坐

更

種

物

乎

生

給

氏

此

能

菜

字

持

氏

鎮

奉

止

礼

教

悟

給

支

と

所

知

食

上

津

國

心

惡

子

荒

比

曾

水

神

匏

山

姫

川

四

等

に

傳

り

て

此

川

菜

立

成

と

引

て

水

苔

一

名

河

苔

和

名

加

波

奈

と

出

ぬ

水

苔

河

乃

苔

蕨

の

總

稱

み

子

所

見

け

る

谷

川

氏

ハ

川

菜

ハ

水

芥

の

事

也

ハ

水

芥

と

ハ

水

芥

の

事

也

ハ

水

芥

の

事

也

ハ

水

ハ高立^{タカク}る菜^ナの名^ナみして又^マ辛辣^{カラシ}の氣^キありと云^イふ此^{コノ}と云^イふ
 川^{カハ}夕^タカナとは呼^ヨびしち^チん^ン但^レ西^ニ州^{シウ}ありて冬^{フユ}菘^スの一種^{イツルシユ}子^コ
 辛^{カラシ}きは川^{カハ}菜^ナの根^ネを研^リ搥^ヒて塩^{シホ}とす^スカ^カナと云^イふ此^{コノ}川^{カハ}夕^タカナ
 と云^イふは川^{カハ}菜^ナの根^ネを研^リ搥^ヒて塩^{シホ}とす^スカ^カナと云^イふ此^{コノ}川^{カハ}夕^タカナ
 夕^タカナとは呼^ヨびしち^チん^ン但^レ西^ニ州^{シウ}ありて冬^{フユ}菘^スの一種^{イツルシユ}子^コ
 し^シカ^カナと云^イふは川^{カハ}菜^ナの根^ネを研^リ搥^ヒて塩^{シホ}とす^スカ^カナと云^イふ此^{コノ}川^{カハ}夕^タカナ
 是^{コノ}を田^タ子^コと云^イふ七^{シチ}種^{シユ}菜^ナに入^レると四^シ季^キ淡^{タン}の川^{カハ}菜^ナと云^イふ
 る小^{コノ}回^{クハ}しく芥^{カイ}子^コも水^{スイ}味^ミの^ノに^ニあ^ハれ^ル昔^{ムカシ}ハ互^ニ子^コ搥^ヒ用^{ヨウ}し^テ
 りお^リわ^スる^ハ○此^{コノ}もの川^{カハ}上^{ウヘ}に生^ナる冬^{フユ}月^{ツキ}より菘^スを布^フて叢^{ソウ}
 生^ナる紫^{ムラサキ}ハ沙^サ蘇^ソ子^コ水^{スイ}味^ミの^ノに^ニあ^ハれ^ル昔^{ムカシ}ハ互^ニ子^コ搥^ヒ用^{ヨウ}し^テ
 甲^{カウ}春^{ハル}月^{ツキ}に^ニあ^ハりて菘^スと云^イふとい^ハゞと僅^{ワザ}み^ミ三四^{シヨウ}寸^{セン}あ^ハる^ハず
 地^チのハ二^ニ月^{ツキ}花^{ハナ}る^ハく是^{コノ}地^チのハ三^{サン}四^シ月^{ツキ}に^ニあ^ハり^テ花^{ハナ}嫩^{ウツク}き^ク

て後^{ノチ}白^{シロ}くか^カた^テ角^{カク}と^ト活^キぶ^ハ長^{ナガ}子^コわ^ワのハ二^ニ寸^{セン}子^コ搥^ヒ用^{ヨウ}し^テ
 小^{コノ}子^コの^ノ英^{エイ}熟^{ジュク}バ^バ旬^{ジユン}裂^レて^テ子^コ地^チ子^コ搥^ヒ用^{ヨウ}し^テ生^ナ茂^{マウ}る○
 此^{コノ}菜^ナの嫩^{ウツク}時^{トキ}根^ネを^トつ^ラら^シ味^ミ塩^{シホ}み^ミひ^ヒし^シ搥^ヒて^テ軽^{カサ}くと^ト青^{アヲ}汁^{ジュ}
 と^ト絞^シり^テ去^クり^テ酢^ス豆^{マメ}油^{アブ}子^コ浸^シて^テ生^ナ食^シし^シ或^ハハ^ハ鹽^{シホ}子^コ加^カ一^{イツ}膾^{カイ}に^ニ加^カ
 せ^レれ^バそ^ノ青^{アヲ}翠^{スイ}鮮^{セン}み^ミ美^ミし^シ或^ハハ^ハ研^リ碎^{サイ}て^テ火^ヒに^ニ焙^ヒと^トき^キは^ハ辛^{カラシ}
 く^ク香^{カウ}しく^ク人^{ヒト}の^ノ口^{クチ}を^ト爽^{スワカ}め^ル
 辛^{カラシ}味^ミ辛^{カラシ}辣^{ラク}み^ミして^テ湯^ユを^ト煮^ニか^カし^シ生^ナ食^シして^テ胸^{ムネ}膈^{カク}の^ノ滞^{テイ}氣^キを^ト
 利^リし^シ飲^{イン}食^シを^ト消^{シユ}後^{ノチ}乃^ハ冷^{レイ}守^{シュ}と^ト去^クる^ハ西^ニ州^{シウ}の^ノ俗^{ソク}積^{シユ}塊^{クワイ}あ^ハる^ハ
 の^ノ多^タく^ク其^ノ味^ミを^ト好^{コウ}む^ハる^ハ多^タく^ク其^ノ味^ミを^ト好^{コウ}む^ハる^ハ多^タく^ク其^ノ味^ミを^ト好^{コウ}む^ハる^ハ
 岳^{タケ}芥^{カイ}

一種の川菜あり必高の清水の石上に生る也田舎家園
 子在大と罕葉子仍て如と好く上野確氷花紀伊那智
 山阿白ハ本藩葉尾山中此ものハ茎直立あり水青
 色ありその状ハ燈心龍菊の属に似て多くハ一莖あり
 葉と出し間小枝と分つものあり葉水芥菜子類て青
 く翠を以夏月莖段に四瓣の白華と著莢と結ぶ子漸く
 に喰上りく種のおとくおの子も其根を並み種没花子
 實ありど莖葉味辛辣あり梅子六書故云葎菜好生高
 山泉源石上與石菖蒲一類又云艸生潤根辛芬可茹又正
 字通子葎艸生山澤如蒲黃葉如芥以上の諸説皆岳芥の

輩ありづし山葵の漢名子照し乃を味をのふ故子移栽
 て生活ぐし潔白愛敬をづく塵烟扇子花はべりら
 次又一奇艸あり○主治いまづ海ありどといへども種
 燈花の効と異ふとすし

成形圖說卷之二十九終

